

すぎうら  
**杉浦** ひすい  
**非水** (1876~1965)



**図案家。**松山城下(現、松山市)出身。本名は朝武。当初は日本画家を志し、地元の四条派の画家・松浦巖暉に師事し、明治30(1897)年、東京美術学校(現、東京藝術大学)に入学後は川端玉章に師事して日本画を学んだ。しかし、東京美術学校在学中に洋画家の黒田清輝に出会い、フランスで学んだ清輝がもたらしたアール・ヌーヴォー様式の図案に魅せられたことで図案家へ転向した。同校卒業後、大阪の三和印刷所図案部主任として赴任し、明治36(1903)年に大阪で開催された第5回内国勸業博覧会の関係雑誌の発行を手掛けたほか陳列箱のデザインや会場装飾を行った。その後、各種雑誌や図書の装丁、表紙のデザインを手掛けるなどの活動を経て、明治41(1908)年、三越呉服店に嘱託として入社、初代図案部主任を務め、27年間にわたって同店のポスターやPR雑誌などを一手に担った。非水は特に

グラフィック・デザインの分野の開拓を目指し、大正11(1922)年11月から大正13(1924)年1月にかけてヨーロッパ各国を巡った後、帰国すると図案研究を目的とする七人社をおこし、展覧会開催や雑誌『アフィッシュ』を刊行した。また、昭和10(1935)年には多摩帝国美術学校(現、多摩美術大学)の創設に参加、開校後は校長と図案科主任教授を兼任し、日本のグラフィック・デザイン界で先駆的役割を果たした。

## 略歴

明治9(1876)年5月15日	松山城下の松前町に生まれる。
明治24(1891)年5月	愛媛県尋常中学校に入学。在学中に四条派の画家・松浦巖暉に師事
明治30(1897)年9月	東京美術学校日本画選科に入学
明治35(1902)年4月	黒田清輝の推薦で三和印刷所図案部主任として赴任。
明治36(1903)年	第5回内国勸業博覧会の関係雑誌の発行、陳列箱のデザイン、会場装飾を手掛ける。
明治37(1904)年4月	鳥根県第二中学校(現、鳥根県立浜田高等学校)の教諭として赴任
明治38(1905)年11月	鳥根県第二中学校を辞任して上京、中央新聞社に入社。この頃から「非水」の雅号を用いる。
明治41(1908)年2月	中央新聞社に在籍のまま三越呉服店夜間勤務嘱託を兼任
明治43(1910)年1月	三越呉服店図案部が意匠部から独立し同部主任に就任
明治45(1912)年6月	中澤弘光、山本森之助らと光風会を創立
大正8(1919)年4月	日本美術学校図案科講師に就任
大正11(1922)年11月	絵画研究及び古美術見学のためヨーロッパへ留学
大正14(1925)年5月	日本美術学校の教え子7人と創作図案研究団体「七人社」を創立
昭和4(1929)年10月	帝国美術学校(現、武蔵野美術大学)教授、工芸科図案科長に就任
昭和10(1935)年9月	多摩帝国美術学校の創立に参加。同校の校長と図案科主任教授を兼任
昭和16(1941)年	日本図案家協会設立、会長に就任
昭和30(1955)年5月	日本芸術院恩賜賞受賞
昭和33(1958)年	紫綬褒章受章
昭和40(1965)年	勲四等旭日小綬章受章
8月18日	89歳で永眠

(写真提供：愛媛県美術館)

### 〈関連図書〉

- ・『杉浦非水写生帖』 光村推古書院 1978年
- ・金子賢治監修『非水百花譜』 ラングムハウス講談社 2008年
- ・『杉浦非水のデザイン』 パイインターナショナル 2014年
- ・愛媛県美術館編『生誕140年 杉浦非水 開花するモダンデザイン』 「杉浦非水」展実行委員会 2017年

〈主な収蔵資料〉…(P213~214, 84~85)

〈ゆかりのある場所〉…(P293, 120)